

日本語と日本文学

第 22 号

『日本永代蔵』の神仏の表現と教訓性について…石塚 修……(1)

『枕草子』における「いふべきにもあらず」…若杉 俊明……(12)
——メタレベルに現れる清少納言の表現意識——

「おぼゆ」考……………柳 椿姫……(24)
——『源氏物語』を中心に——

日本語と中国語の第三者敬語における「親」・「疎」の働きの比較対照
——日本人と中国人大学生の言語調査を中心に—— ……郭 俊海 …(左1)

「タメニ」の意味表出と構文的特徴……………于 日平 …(左12)
——複文に見られる時間関係と意志性について——

現代日本語での「の」と撥音の交替……………那須 昭夫 …(左24)
——音声上の特徴から見た撥音形の容認性に関する一傾向——

辞的成分と共起する副詞の計量的研究……………小池 康 …(左36)

平成 8 年 2 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―一

〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌というまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となつて、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実には、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。

構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の複製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

編集後記

『日本語と日本文学』第二十二号をお届けいたしました。今回は気鋭の研究者の投稿が多く集まりました。研究者を旨指す若い会員が増えるのは結構なことで、本誌を学界への登龍門として大いに利用してほしいと思います。

また一方、歴史ある本学会の性格を考えますと、各界で活躍する中堅・ベテランの会員の方による御投稿が少ないのがいささか残念であります。ベテラン会員の方からこの頃の本誌が掲載する若い人の論文はよくわからないというような苦情(?)をいただいたことございますが、先輩諸氏の

御研究の薫陶を若手に与える場としても本誌の誌面を御利用いただきたいと編集委員会は考えております。国語教育の分野をはじめ、ベテランの会員の方々の御投稿もお待ちしております。

(坪井美樹)

平成八年 二月二十九日印刷
平成八年 二月二十九日発行

305 茨城県つくば市天王台一―一―一
〒筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 桑原博史
印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel. 〇二九八(五一)七六五二